

学校教育目標

『力を合わせて、ともに歩もう』
自分のよさに気づき、愛する町や人とともに、自分の生き方を切り拓いていく生徒を育てます。
感謝と挑戦

学校概要

創立 79 周年	学校長 清田 英美	副校長 白濱 小恵子	2 学期制	一般学級: 16	個別支援学級: 5
児童生徒数: 591 人		主な関係校: 鶴見小学校 豊岡小学校 東台小学校			

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

- 自分づくりに関する力
- 伝え合い自分の考えを深化する力
- 課題発見・解決能力
- 協働的に解決策を見いだす能力
- 結果を予測し現実と比較する力

鶴見中
ブロック

鶴見中学校
鶴見小学校
豊岡小学校

小中一貫教育推進ブロックにおける
育成を目指す資質・能力を踏まえた
「9年間で育てる子ども像」と具体的取組

自分のよさに気づき、愛する町や人とともに、自分の生き方を切り拓いていく児童生徒

＜具体的取組＞

- 生徒会活動と児童会活動のこども会議の開催を通して意見を交流しながら小中ブロックの連携を深める。
- 小中一貫推進ブロック協議会を通じて、9年間で育てる子どもの像 成長目標 を意識し、各校で研修を企画する。
- 中一ギャップを生じさせないために、児童が中学校体験活動などを通して中学校生活に関する理解を深める取り組みをする。

中期
取組
目標

- 深い信頼関係に基づいた指導により生徒一人ひとりが大切にされ、誰もが安心して豊かに生活できる学校を目指します。(人権教育の推進)
- 教職員が互いに研鑽し資質の向上に努めることによって、活気のある学校を目指します。(魅力ある学校づくり)
- 保護者・地域からの信頼を基盤にして、協働による質の高い教育の実現を目指します。(地域とともに歩む)
- 「分かる授業・楽しい授業」を目指し、研究の成果を実践に結びつけ、授業力の向上を図ります。(授業改善の推進)

重点取組分野

具体的取組

知	授業改善	①個別最適な学びと協働的な学びのできる授業についてPDCAを行い、授業の改善を図る。②ICT端末を効果的に活用し、主体的かつ探究的な学びにつながる授業を目指す。③道徳の授業研究を行い、教職員の授業改善につなげる。
担当	学習指導部 教科主任会	
徳	人権教育	①人権作文の全校での取り組みや全校での道徳の研究授業を行い、人権意識をより一層高めていく。②職業講話や、職場体験などの体験を通じて、道徳的な実践力を促したり、培ったりするための体験を一層充実させる。
担当	学習指導部 人権教育推進担当	
体	健康教育	①保健体育の授業や部活動の取組を通して、体力や技能の重点課題を明確に資質能力の向上を目指し、体力向上を図る。②学校全体で熱中症対策を施しながら、安全に配慮し基礎体力の向上を目指す。③保健委員会、美化委員会を中心に自己の体調管理、学校の環境整備に努め、規則正しい生活を築く。
担当	保健体育科 保健安全指導部	
公開	ESDの推進	①教科書の学習内容とSDGs17の目標とのつながりを示し、ICTを活用しながら、実社会の課題を自分のこととして捉えることができるようにする。②生徒会活動をSDGsの視点で見直し、生徒が主体となって身近な課題や社会課題の解決に向けた活動になるようにするとともに、家庭・地域に発信する。
担当	学習指導部・特活指導部	
	いじめへの対応	①いじめ防止対策委員会を毎週行うことで、細かくいじめ認知を行うとともに丁寧に経過観察を行うことでいじめ対策が形式的にならないように努める。②毎日の健康観察や年2回のいじめアンケート、教育相談を通して生徒が声をあげやすい環境をつくるとともに生徒の表情や行動の変化を見逃さないような体制づくりを行う。
担当	いじめ防止対策委員会	
	人材育成・組織運営(働き方)	①教職員のキャリアステージに応じた校内研修、校外研修の企画運営を実施する。②ICTを活用した事務の効率化や授業改善、情報の共有化をより一層図り、校務DXの推進と教職員の負担軽減への取組を行う。
担当	教務部・メンターチーム	
	児童生徒理解	①年3回の教育相談日の設定、日々の毎日の健康観察、日頃からの声掛けなど、生徒一人ひとりの想いに寄りそった生徒指導に組織的に取り組む。②Y-P(横浜プログラム)を通して生徒個人のアセスメントや学級のアセスメントを行って支援検討会を行う。
担当	生活指導部	
	特別支援教育	①生徒理解研修を実施し、全教職員共通理解のもと、生徒の状況を把握し、日常的な支援を行っていく。②「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を活用し、SCやSSW、特別支援教室支援員と連携し、生徒一人ひとりの課題に応じた支援を行う。
担当	特別支援教育推進委員会	
	地域学校協働活動	①学校運営協議会や学校家庭地域連携協議会を通して、生徒の現状や目指す姿について情報発信を行って共通理解を深める。②学校行事や地域祭礼において、実現性が高く継続性のある形を模索しながら地域とのつながりを保って、協働活動を充実させていく。
担当	事務部	
担当		